

第6章 現状と課題

第1節 保存の現状と課題

本質的価値と特定した構成要素の内容を踏まえ、各城館跡の現状と課題を整理する。

(1) 共通の項目

区分	現状	課題
調査研究	<ul style="list-style-type: none"> 安宅氏城館跡や安宅荘についての調査研究を進めているが、全容解明には至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も調査研究の推進に努める。
	<ul style="list-style-type: none"> 周辺市町村や研究機関で中世城館や熊野水軍の調査や研究が進められている。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関との積極的な連携を行い、様々な観点から調査を推進する。
遺構の現状把握 や保存対策	<ul style="list-style-type: none"> 保存状態を確認している（不定期）。 	<ul style="list-style-type: none"> 把握した情報の体系的な整理と、庁内の情報共有が不足している。
	<ul style="list-style-type: none"> 遺構や地形の保存に悪影響を及ぼす樹木がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 樹木の把握や伐採等が必要である。
	<ul style="list-style-type: none"> 安宅氏城館跡で被害は出ていないが、管内の他の史跡（熊野参詣道大辺路）で大雨や獣害による被害が確認されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 被害の未然防止に努める。
施設	<ul style="list-style-type: none"> 史跡を示す標識と境界標を設置していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 標識や境界標を設置する必要がある。
追加指定	<ul style="list-style-type: none"> 勝山城跡、大野城跡、大向出城跡が未指定である。 	<ul style="list-style-type: none"> 安宅氏城館跡の一体的な保存のため、早急な追加指定に努める。 その他の中世城館の調査も進める。
公有化	<ul style="list-style-type: none"> 指定地の多くが民有地である。 	<ul style="list-style-type: none"> 安宅氏居館跡を優先的な対象とし、将来的な公有化を検討する。



写真 6-1 根起こしの様子（八幡山城跡）



写真 6-2 法面に樹木が根づいている様子（八幡山城跡）

(2) 各城館跡について

1) 安宅氏居館跡

要素の区分	現状	課題
A. 本質的価値を構成する要素	<ul style="list-style-type: none"> ・ 未指定部分がある。 ・ 多くが民有地（宅地等）である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一体的な保存を行うため、追加指定に努める。 ・ 未指定部分の地権者との連絡調整を密にする必要がある。

2) 八幡山城跡

要素の区分	現状	課題
C. その他の要素	<ul style="list-style-type: none"> ・ 倉庫、仮設トイレが設置され、史跡の景観が阻害されている。 ・ 祠が設置されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所有者に将来的な撤去又は移設の検討を促す。 ・ 祠の将来的な取り扱いの検討が必要である。



写真 6-3 倉庫と仮設トイレ

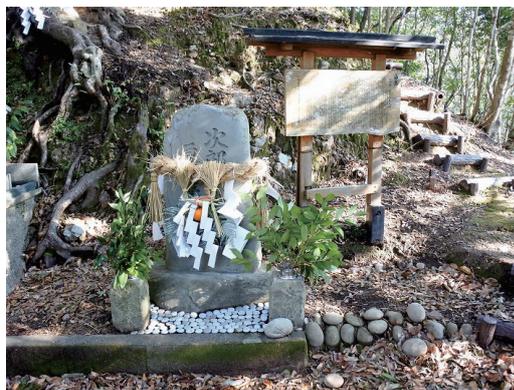


写真 6-4 祠

3) 中山城跡

要素の区分	現状	課題
A. 本質的価値を構成する要素	<ul style="list-style-type: none"> ・ 未指定部分がある。 ・ 石積みが一部露出している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一体的な保存を行うため、追加指定に努める。 ・ 定期的な観察が必要である。



写真 6-5 石積みの一部露出

4) 土井城跡

要素の区分	現状	課題
A. 本質的価値を構成する要素	・ 測量調査のみ実施している。	・ 実態解明のため、発掘調査等が必要である。
C. その他の要素	・ 簡易水道施設が設置されている。 ・ 石碑が設置されている。	・ 簡易水道施設の撤去又は移設を検討する。 ・ 石碑の将来的な取り扱いの検討が必要である。



写真 6-6 簡易水道施設



写真 6-7 石碑

5) 要害山城跡

要素の区分	現状	課題
C. その他の要素	・ 登山道の一部が未整備のため、滑落等の危険性がある。	・ 遺構や地形の保存のため、適切な登山道を設ける必要がある。



写真 6-8 登山道の様子 1



写真 6-9 登山道の様子 2

(3) 保存の課題（まとめ）

調査の推進、連携の強化

- ・安宅氏城館跡や安宅荘のさらなる調査研究の推進に努める。
- ・研究機関等との積極的な連携を行い、多様な観点からの調査を実施する。

遺構の現状把握と保存対策

- ・遺構の現状を適切に把握し、体系的に整理した上で、その情報を庁内で共有する。
- ・遺構に影響を及ぼしている樹木の把握や伐採管理を実施する。
- ・大雨や獣害による遺構被害の防止策を検討する。

施設等の取り扱い、新設

- ・倉庫、仮設トイレ、簡易水道施設の撤去又は移設が必要である。
- ・石碑や祠の将来的な取り扱いを検討する。
- ・史跡を示す標柱・標識の設置に努める。
- ・遺構や地形の保存のため、適切な登山道や史跡の管理道を設ける必要がある。

追加指定、公有化の実施

- ・安宅氏城館跡の一体的な保存を図るため、追加指定候補の早急な追加指定に努める。
- ・史跡の将来的な公有化を目指し、遺構の確実な保存や実態解明に努める。

第2節 活用の現状と課題

(1) 活用の現状

1) シンポジウム

白浜町では、旧日置川町の町史編さん事業を契機として、シンポジウムによる調査成果の積極的な公開を行ってきた。町史完成後も、様々な専門家による講演や最新の調査成果の報告を継続して開催している。

表 6-1 シンポジウム一覧

開催年度	題目	参加者数
平成 14 年 (2002)	第 1 回熊野水軍シンポジウム「海 戦い・商い・暮らし」	約 110 人
平成 15 年 (2003)	第 2 回熊野水軍シンポジウム 「海と山とヒトの交わり、モノの流れ」	約 130 人
平成 16 年 (2004)	第 3 回熊野水軍シンポジウム「未来へ」	約 120 人
平成 19 年 (2007)	熊野水軍のさとシンポジウム 「新たな調査成果から熊野水軍安宅氏の実像に迫る」	約 100 人
平成 27 年 (2015)	熊野水軍のさとシンポジウム 「熊野水軍のさと 安宅荘を考える～城館からみた安宅荘～」	約 70 人
平成 28 年 (2016)	熊野水軍のさとシンポジウム「列島の中の熊野水軍」	約 70 人
平成 29 年 (2017)	熊野水軍のさとシンポジウム「安宅氏の居館を探る」	約 50 人
令和 元年 (2019)	熊野水軍のさと調査報告会	約 30 人
令和 3 年 (2021)	熊野水軍のさとシンポジウム「城跡を活かしたまちづくり」	約 100 人



写真 6-10 平成 28 年シンポジウムの様子



写真 6-11 平成 29 年シンポジウム
出土遺物の展示解説

アンケート結果からみるシンポジウム

平成27年（2015）から令和元年（2019）の参加者にアンケート調査を実施した。

- ・ 約8割が男性であり、女性の参加者が少ない。（表6-2）
- ・ 50代以上の参加者が8～9割を占め、40代以下が少ない。（表6-3）
→ 今後は、女性層や40代以下の参加者を増やす取り組みが必要である。
- ・ 町内で開催した平成27、29年、令和元年は、白浜町在住が半数以上を占める。（表6-4）
- ・ 「非常に満足」「満足」が約8割を占め、シンポジウムの満足度が高い。（表6-5）

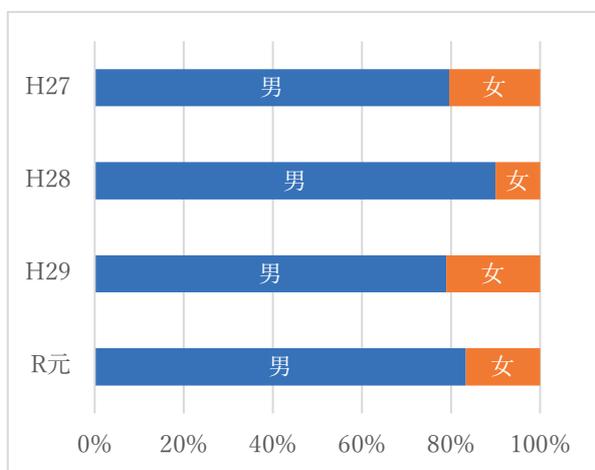


表6-2 参加者の性別

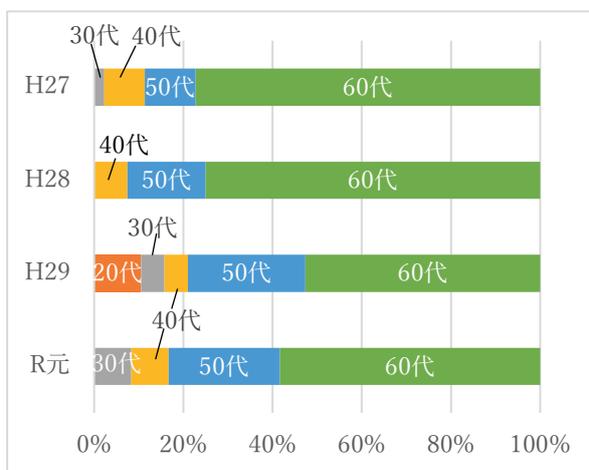


表6-3 参加者の年齢

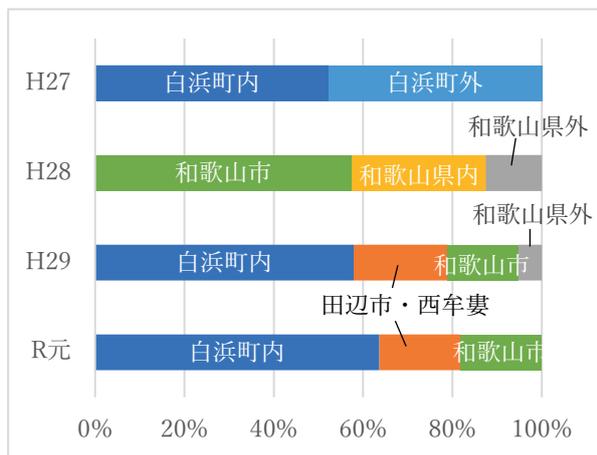


表6-4 参加者の住まい

(平成28年度は和歌山市内で開催)

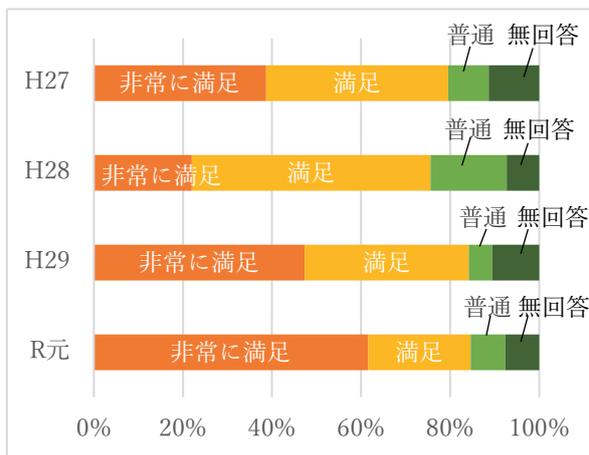


表6-5 参加者の満足度

2) その他の活用

<地域住民への周知>

○ここまでわかった安宅のお城

開催時期：平成 27 年（2015）7 月 25 日

参加者：33 人（安宅区、矢田区の地域住民）

主催：白浜町教育委員会

概要：保存活用の中心となる史跡周辺の住民に向けて、学芸員による城館跡と出土遺物の説明を行った。



写真 6-12 ここまでわかった安宅のお城の様子

○発掘調査 現地説明会

開催時期：平成 23 年（2011）3 月 19 日

参加者：20 人

主催：白浜町教育委員会

概要：要害山城跡の発掘調査時に開催した現地説明会である。発掘調査の成果について調査担当者である学芸員が説明を行った。



写真 6-13 発掘調査 現地説明会の様子

<学校教育との連携>

○安宅氏城館跡の現地説明

開催頻度：年 1 回程度

主催：白浜町教育委員会

概要：地元の小中学生を対象とした安宅氏城館跡の現地説明会である。地域学習の一環として、旧日置川町内のほとんどの学校で実施している。



写真 6-14 現地説明の様子

○南紀州ほんまもん体験

開催頻度：年 1 回程度 参加者：30 人程度

主催：南紀州交流公社

概要：日置川地域の自然、歴史、文化、伝統産業をありのまま体験できる観光事業である。歴史文化の体験では、安宅氏の歴史を学び、城館跡の道普請を行っている。これまでに大阪の中学生が参加し、土井城跡の道普請を行った。



写真 6-15 南紀州ほんまもん体験の様子

<ウォークイベント>

○熊野水軍のさとウォーク

開催時期：令和元年（2019）5月14日

参加者：10人程度

主催：白浜町教育委員会

概要：要害山城跡と熊野参詣道大辺路富田坂を
専門家や学芸員と歩くイベントである。
ウォークでは城館跡のみならず、参詣道
との関係についても解説した。



写真 6-16 熊野水軍のさとウォークの様子

<地域住民・活動団体による活動>

○歴史クラブによる語り部

頻度：随時

語り部：ひきがわ歴史クラブ、富田坂クラブ

概要：来訪者から要望があった際に、城館跡の
歴史や遺構の説明を行っている。ひきが
わ歴史クラブは日置川周辺で、富田坂ク
ラブは要害山城跡や熊野参詣道大辺路周
辺で主に活動している。



写真 6-17 語り部の様子

○安宅八幡神社での案内

掲載者：安宅区（安宅八幡神社の管理者）

概要：安宅荘や安宅氏城館跡の周知を目的に、
八幡山城跡登山口付近にある社務所で掲
示を行っている。城館跡の航空写真を始
め、安宅一乱記巻末絵図や、文化財防火デ
ーの取り組みなど、多岐にわたった内容
を掲載している。



写真 6-18 安宅八幡神社社務所の案内の様子



写真 6-19 案内の例（安宅氏城館跡の位置図）

<広報>

○安宅荘の中世城館探訪マップ

発行：平成 28 年（2016）、平成 29 年（2017）

発行者：白浜町教育委員会

配布場所：日置川拠点公民館

概要：これまでの調査成果を反映させたマップである。安宅氏城館跡の歴史や遺構の概要を記載している。



図 6-1 安宅荘の中世城館探訪マップ

○中世安宅荘を歩く（仏像編/城跡編）

発行：平成 20 年（2008）

発行者：白浜町教育委員会、大辺路・日置川
歴史体験ルート開拓実行委員会

配布場所：日置川拠点公民館

概要：安宅荘内の城館跡と仏像を中心としたパンフレットである。それぞれの位置と概要を掲載している。



図 6-2 中世安宅荘を歩く（仏像編/城跡編）

○「広報白浜」教育委員会だより

掲載頻度：毎月

概要：白浜町の広報誌「広報白浜」の教育委員会のコーナーである。安宅氏城館跡の報告や告知がある場合、積極的に周知を行っている。



図 6-3 教育委員会だより

<関連機関との主な連携・協力>

○和歌山県立博物館

- ・ 企画展「熊野水軍」（平成 24 年度）
- ・ 企画展「躍動する紀南武士」（平成 28 年度）
- ・ 春季特別展「戦乱のなかの熊野」（令和 2 年度）

○公益財団法人和歌山県文化財センター

- ・ 和歌山県内埋蔵文化財調査成果展「紀州のあゆみ」（平成 26 年度）
- ・ 和歌山県内文化財調査報告会「地宝のひびき」（平成 31 年度/令和元年度）

○軍記と語り物研究会

- ・ 闘雞神社創建千六百年記念公開シンポジウム
「紀南の海と中世の戦乱－熊野水軍と安宅氏・小山氏」（令和元年度）

○和歌山城郭調査研究会、紀伊考古学研究会

- ・ 史跡指定記念「躍動する熊野の武士団－その本拠と特質を探る－」（令和2年度）

○神奈川大学日本常民文化研究所・神奈川大学 国際常民文化研究機構

- ・ 第7回共同研究フォーラム「中世熊野の海・武士・城館」（令和2年度）
- ・ 神奈川大学日本常民文化研究所調査報告第29集 『熊野水軍小山家文書の総合的研究』
神奈川大学学術機関リポジトリにより一般公開

（2）活用の課題

魅力的な活用内容の検討

- ・ 史跡の立地や出土遺物の特徴を活かした安宅氏城館跡ならではの魅力的な活用に取り組む。
- ・ 関連文化財のネットワークを活かした一体的な活用に努める。
- ・ 学校教育や社会教育との連携を強化し、安宅氏城館跡をより深く理解できる活用に取り組む。

積極的な情報発信の必要性

- ・ 調査成果等の積極的な公開が必要である。
- ・ 関連文化財を踏まえた安宅荘の一体的な情報発信に努める。
- ・ 様々な手段や媒体で情報発信を行い、町内外へ向けた広い周知が必要である。

第3節 整備の現状と課題

(1) 整備の現状

<共通の項目>

安宅氏城館跡は、複数の城館跡から構成されている。よって全体の概要や各城館跡の位置等を総合的に周知する必要がある。しかし、ガイダンス施設が設置されておらず、地域住民や来訪者への情報発信が不足している。

<安宅氏居館跡>

発掘調査で確認された地下遺構は、遺構の保存のためすべて埋め戻されている。遺構に関する説明板は設置されていない。そのため、現地で史跡と認識できない状態である。

<八幡山城跡、中山城跡、土井城跡、要害山城跡>

現在行われている整備は、サイン施設（説明板、誘導板等）と登山道の設置である。説明板は登り口のみで、史跡地内には設置されていない。そのため、来訪者に遺構の概要や位置を伝達できていない。登山道は地域住民・活動団体と共に設置や維持管理を行っている。しかし、一部危険な箇所があること、遺構の見学路が不足していることから、今後登山道や見学路を見直す必要がある。

また、樹木や下草が、遺構の眺望を阻害している箇所がある。さらに保存活用に関係しない施設（倉庫等）が設置されている城館跡では、撤去や移築が望まれる。

なお、保存のための整備は現在実施されていない。しかし、管内の史跡（熊野参詣道大辺路）において、大雨や獣害等による被害が確認されていることから、未然に対策が必要である。



写真 6-20 登り口の説明板（中山城跡）



写真 6-21 樹木により豎堀が認識できない様子（要害山城跡）

(2) 整備の課題

遺構保存のための整備

- ・災害や獣害等を考慮した遺構の保存対策が必要である。

本質的価値の顕在化

- ・遺構を顕在化するため、樹木伐採等の環境整備を実施する。
- ・保存活用に関係しない施設の撤去若しくは移築が必要である。

案内・誘導施設の不足

- ・史跡の価値を適切に伝達するためのサイン整備計画を策定する。
- ・サイン整備計画に沿って、サイン施設（説明板・誘導板等）を設置する。
- ・劣化している登山道や見学路等の見直しが必要である。
- ・城館跡間の見学ルート、城館跡内部における各遺構への見学ルートを設定する。

ガイダンス施設の設置

- ・安宅氏城館跡の価値を適切に理解するために、その拠点となるガイダンス施設の設置が不可欠である。

第4節 運営の現状と課題

(1) 運営の現状

史跡安宅氏城館跡の管理団体は白浜町であり、史跡等の保存（調査研究含む）と活用については教育委員会が主体的に推進している。

事業実施の財源は、国庫補助金・県費補助金・町一般財源を利用している。現在の国庫補助率は、遺構等の確認調査や整備事業で50%、公有化事業で80%である。

調査研究は、和歌山県立博物館をはじめとした様々な研究機関と連携を行っている。また、周辺市町村では、中世城館や荘園の研究が進められている。これらの調査研究機関とは、今後より一層の連携が必要である。

下草の伐採等の道普請は、地域住民や活動団体と協働で行ってきた。しかし、少子高齢化による担い手の減少が問題となっている。

(2) 運営の課題

庁内の組織体制強化

- ・文化財担当部局の組織づくりや専門職員の適切な人員配置が運営上必須である。
- ・庁内での円滑な意思疎通と情報共有を図り、関係部局との連携強化に取り組む。

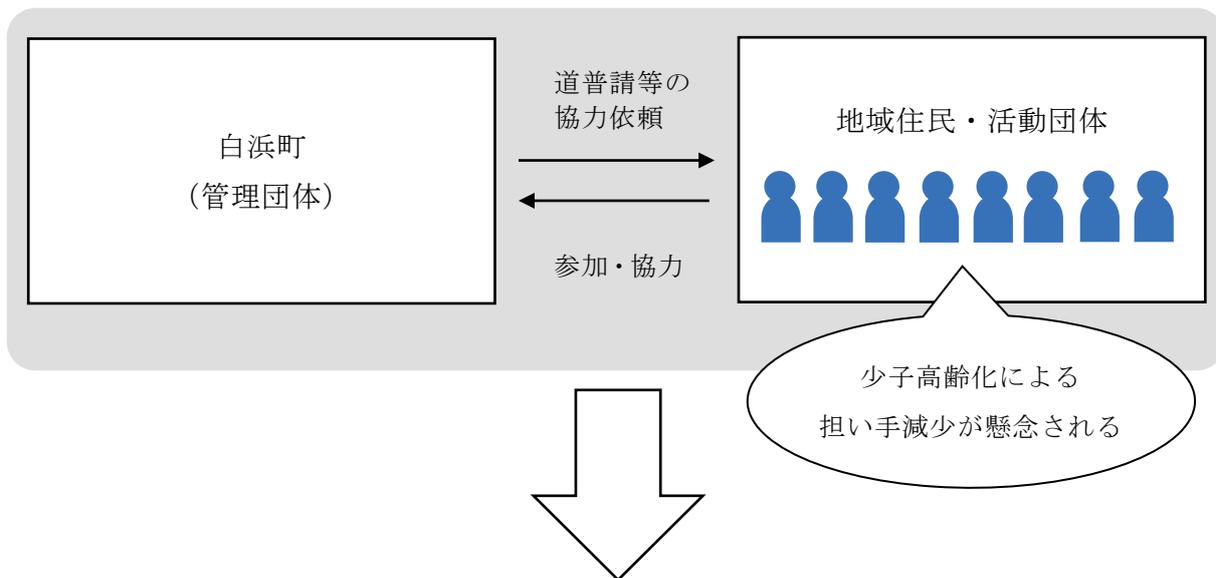
関係機関との連携強化

- ・研究機関と連携し、調査研究のさらなる推進が必要である。
- ・国や県と連携を強化し、史跡の確実な保存に努める。
- ・地域住民や活動団体と今後も連携を強化する。

新しい仕組みづくり

- ・将来へ確実に保存継承できるように、町内外を問わず歴史や文化財に興味がある人、町外に住んでいる白浜町出身で地元との関わりを持ちたい人たち（以下、文化財サポーターとする）が、史跡等の保存活用に参加できるような新たな仕組みづくりが必要である。

<現状の体制>



<望ましい将来の体制>

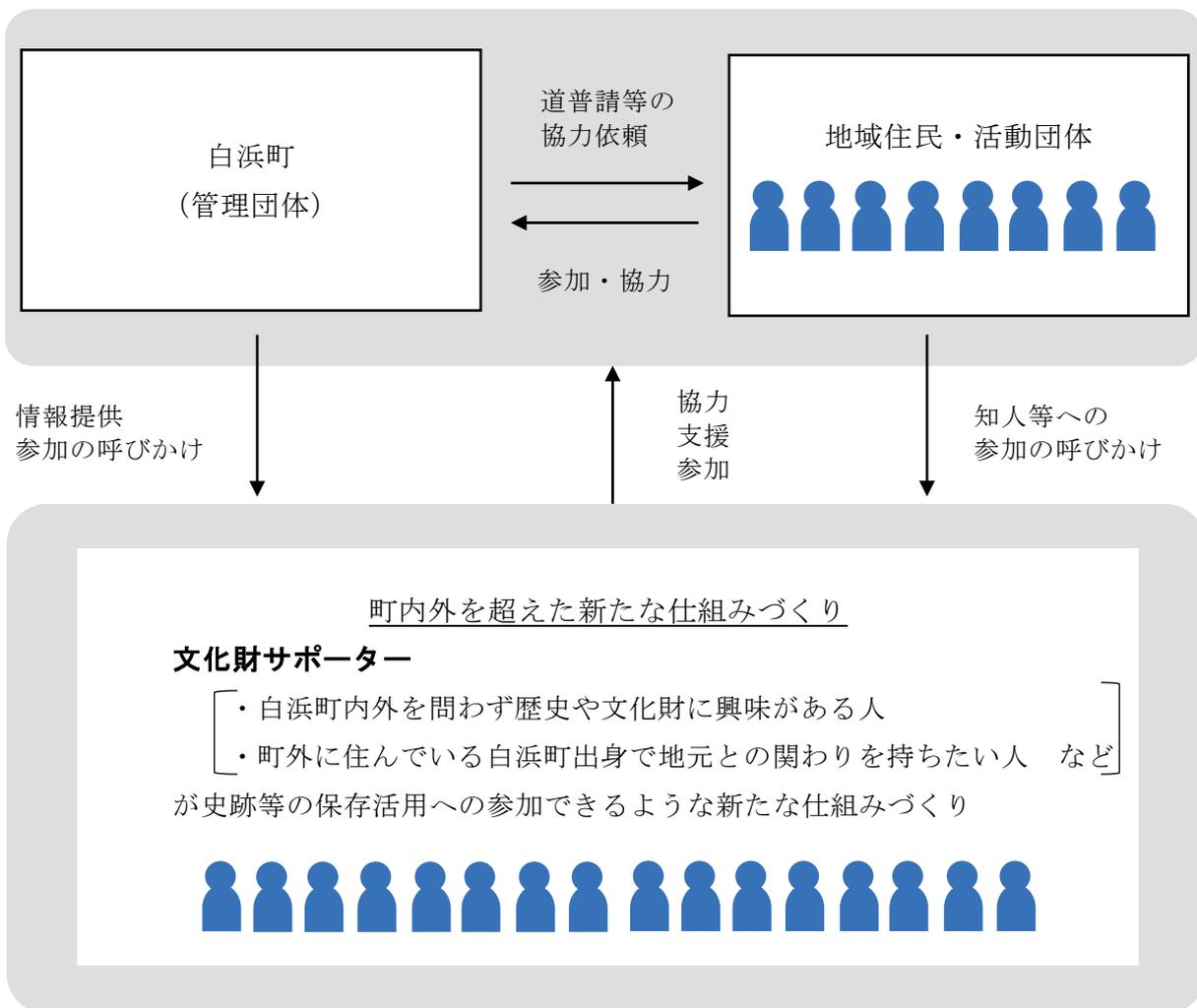


図 6-4 新たな仕組みづくりのイメージ図